

Title	米国におけるリサーチ・アドミニストレーターの教育プログラムと認定資格
Author(s)	鳥谷, 真佐子
Citation	年次学術大会講演要旨集, 27: 511-512
Issue Date	2012-10-27
Type	Conference Paper
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/11073
Rights	本著作物は研究・技術計画学会の許可のもとに掲載するものです。This material is posted here with permission of the Japan Society for Science Policy and Research Management.
Description	一般講演要旨

2 E 0 2

講演題目 米国におけるリサーチ・アドミニストレーターの教育プログラムと認定資格

○発表者氏名（発表者所属）鳥谷 真佐子（金沢大学）

【背景】

近年の日本の大学を取り巻く環境の変化の一つとして、運営費交付金の減少とそれに伴う競争的外部資金の増加が挙げられる。特に課題解決を目指した成果重視の目的志向型研究や大学のシステム改革を求める教育研究プログラムの増加に伴い、大型の学際的研究チームの構築や研究プロジェクトの進捗管理・成果管理といった研究「のための」マネジメント業務が必要不可欠となってきた。これらの研究マネジメント業務に従事する専門人材として、リサーチ・アドミニストレーター(URA)が注目されており、各大学において導入が始まっている。

平成 23 年度より開始した文部科学省「リサーチ・アドミニストレーターを育成・確保するシステムの整備」(リサーチ・アドミニストレーションシステムの整備)事業により、15 大学が URA 導入のための支援を受けている。リサーチ・アドミニストレーションシステムの整備事業と同時に「リサーチ・アドミニストレーターを育成・確保するシステムの整備」(研修・教育プログラムの作成)事業により、URA の業務遂行能力向上に資する研修・教育プログラムの作成・実施も進められているところである。

【目的】

日本における URA 導入が進むにつれ、その育成方法への関心が集まっている。URA はもともとアメリカにおける第 2 次世界大戦以降の競争的資金の増加に伴い、申請業務や資金の適切な管理等を行うための専門職として発達したものである。従って、アメリカにおける URA の教育・研修についての知見は、今後の日本における URA 育成へ貢献するものと期待できる。そこで本研究ではアメリカにおける URA の研修・育成の実際についての調査を行い、今後の日本の URA 育成に対しての示唆を提示することを試みる。

【研究の方法】

文献調査、ウェブ調査、インタビュー

【結果】

アメリカにおける URA の研修・教育の一つとして、URA 職能団体が提供する研修・教育プログラムがある。National Council of University Research Administrators (NCURA) は 1960 年に設立された約 7000 人の会員を有する米国を代表する URA の職能団体である。また、1967 年に設立された URA の職能団体である The Society of Research Administrators (SRA) International は 4000 人の会員を有している。いずれも年 1 度の年会と分科会において、目的別・レベル別の研修・教育プログラムを用意している。オンラインでの研修も受けることができる。

一方、各大学が独自に開発している研修・教育プログラム、認定も存在する。例えばコーネル大学では Cornell University's Research Administration Certification Program (RACP) と称する独自の認定プログラムを開発しており、5 日間の必修コアトレーニングプログラムに加え、15 時間の選択科目履修、最後に試験に合格することで認定を受けることができるようになっている。

さらに、サウスフロリダ大学のように、リサーチ・アドミニストレーションの修士課程を有する大学も存在する。

このように、いくつかの大学が独自の研修・教育プログラム開発や認定を行っているが、全米で共通の URA 認定も存在する。Research Administrators Certification Council (RACC) は、1993 年に設立された URA の資格認定を行っている非営利団体である。資格認定には、一定の職務経験と試験の合格が必

要となる。この試験の出題範囲は、URA のための知識体系「Body of Knowledge」に基づいている。ただしこの Body of Knowledge は、出版物のような確立されたものではなく、ウェブ上の様々な情報のリンクを整理したものである点が興味深い。また RACC は上述の NCURA、SRA International と連携しており、Body of Knowledge をカバーする研修・教育プログラムのセッションを提供するようにしている。全米で 15 万人いると目されている URA であるが、RACC の認定者は未だ全米で 1780 名（平成 24 年 9 月現在）しか存在しておらず、この制度はまだそれほど浸透していないと思われるものの、最近ではこの資格が昇任の際に考慮されるようになってきたとのことである。

本発表では、上記に述べた各団体・大学における研修・教育プログラムおよび認定についての具体について報告を行いたい。また、それにより今後の日本における URA 研修・教育プログラムおよび認定の在り方について考えたいと思う。